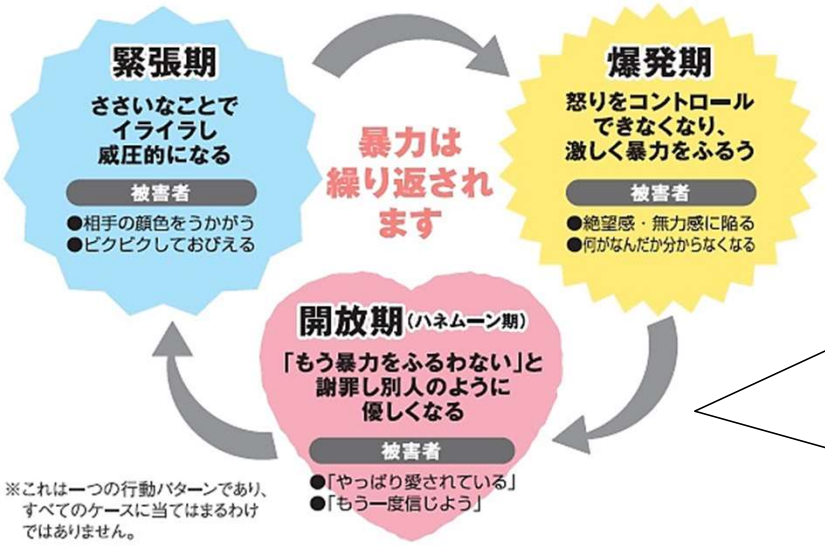
DVについて正しく理解しよう!

DVには、「サイクル」があります



開放期で加害者が被害者に優しくなるのは、被害者が離れていくのを防ぐためです。

被害者はやり直せるかもしれないと期待を抱き、逃げるタイミングを失います。

このサイクルが何度も繰り返されると、被害者は「離れることはできない」と思うようになり、**支配-被支配の関係が強化される**のです。

DVについての誤解をなくそう！

「被害者にも悪いところがあるから、暴力をふるわれる」

⇒ **そうではありません**。加害者から「お前が馬鹿だから教えてやってるんだ」「しつけてやってるんだ」などと言われることで、被害者は暴力の原因が自分にあると思いがちですが、**どんな理由でも暴力は許されません**。

「ストレスや飲酒が暴力の原因だから仕方ない」

⇒ ストレスや飲酒は、言い訳に使われているだけで、**加害者自身が暴力を選択しています**。

「被害者が努力すれば、暴力を減らすことができる」

⇒ 努力するほど、要求されるハードルが高くなり、被害者はエネルギーを奪われてしまいます。

「DVは夫婦げんかの延長だ」

⇒ 夫婦げんかは、お互いが対等な立場で、それぞれの意見をぶつけ合う一時的なものであるのに対し、ＤＶはどちらかから**一方的に継続して振るわれる暴力で、力で相手を支配する関係**です。

「別れたり逃げたりしない被害者が悪いのでは？」

⇒ 「逃げたら殺されるかもしれない」という恐怖感や経済的な不安、子どもの安全等の心配などから、なかなか家を出る決心がつかないこともあります。

「相談しても無駄だ」

⇒ 警察などの専門機関、相談窓口で相談することで、緊急支援や法的支援といった公的サポートにつながります。**相談はDV被害から逃れる最初の一歩です**。

DVのある関係は、「対等」な関係ではありません